

北アルプス（朝日・^{はくぼ}白馬連山）生物群集保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局・富山森林管理署、中信森林管理署
所在地	富山県朝日町、黒部市、長野県白馬村
面積	6,075.52ha
設定年	昭和48年4月1日設定（白馬）、平成3年4月1日設定（朝日） （平成30年4月1日変更）
保護林の概要 （設定目的）	日本海側気候の特長を示すブナ帯から高山帯にかけての代表的な森林帯が分布している。朝日岳（2,418m）から日本海までの距離は18kmと短く、冬期の季節風を直接受けるため代表的な日本海側の植生となっている。また、朝日岳から白馬岳（2,933m）一帯は、山岳の地形が変化に富んでいるうえ、特殊な超塩基性の蛇紋岩地帯もあるため、400種にも及ぶ高山植物の宝庫となっている。このため、国の特別天然記念物「白馬連山高山植物帯」に指定されている。こうした地域の貴重な植物群落の保護・管理を図る。



モニタリング調査の概要

実施年度	令和2年度
調査項目	森林詳細調査（樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査）、その他の調査等（資料調査・聞き取り調査）
調査手法	森林詳細調査としてブナやダケカンバ、オオシラビソ、高山植物等の生育地において調査プロットを6箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	亜高山帯ではダケカンバ林やミヤマハンノキ林、オオシラビソ林などが成立しており、高山帯ではガンコウランなどが優占する高山植物群落などが確認され、これらの群落で実施した調査の結果に過年度からの大きな変化はなかった。また、ヤマドリソウやオオカサネソウ等の希少種を含む多数の高山植物も確認された。 現在のところ、ニホンジカ等による顕在化した植生被害は確認されておらず、保護林の健全性が保たれていると言えるものの、猿倉林道ではニホンジカと思われる食痕が、また、亜高山帯の湿地でイノシシによる堀跡が確認された。今後のニホンジカやイノシシの高標高地への分布拡大等には注意が必要である。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

賤母生物群集保護林	
管轄森林管理局・署	中部森林管理局・東濃森林管理署、木曽森林管理署南木曽支署
所在地	岐阜県中津川市、長野県南木曽町
面積	251.02ha（保存地区 157.33ha、保全利用地区 93.69ha）
設定年	平成 5 年 4 月 1 日設定（平成 30 年 4 月 1 日変更）
保護林の概要 （設定目的）	長野県の西南端、木曽川左岸の標高 400～600m の範囲に位置し、ヒノキ、サワラを主体とする林分に照葉樹が混在し、急峻な斜面に 500 種以上の植物が繁茂している。太平洋側の温帯林と暖帯林の移行相として、木曽谷の多くの森林と異なる特異な植生を形成していることから、この森林の保護・管理を図る。



モニタリング調査の概要

実施年度	令和 2 年度
調査項目	森林詳細調査（樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査）、その他の調査等（資料調査・聞き取り調査）
調査手法	森林詳細調査としてヒノキやコウヤマキ、モミ等の生育地において調査プロットを 3 箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	前回調査と同様に、樹高約 30m のヒノキやコウヤマキが多くみられ、大径木に獣害はほとんど見られない。 しかし、標高の低いプロットではブラウジングラインや下層植生の種数の減少といったニホンジカの影響が出ている。 ニホンジカの動向によっては今後さらに植生が衰退する恐れがあり注意が必要である。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

恵那山生物群集保護林	
管轄森林管理局・署	中部森林管理局・東濃森林管理署
所在地	岐阜県中津川市
面積	492.21ha
設定年	平成5年4月1日設定（平成30年4月1日変更）
保護林の概要 （設定目的）	恵那山上部には、亜高山帯針葉樹であるシラビソ(シラベ)等の群落があり、一部林床にオサバグサが生育している。この植生の分布は岐阜県の南限にあたり貴重であるため、山地帯上部から亜高山帯まで含めて保護・管理を図る。



モニタリング調査の概要

実施年度	令和2年度
調査項目	森林詳細調査（樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査）、その他の調査等（資料調査・聞き取り調査）
調査手法	森林詳細調査としてシラビソ等の亜高山帯針葉樹の生育地において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	恵那山上部には前回調査と同様に、シラビソ群落が成立していた。山頂以外ではシラビソ等の後継樹もみられるが、幹折れや風倒木、立ち枯れが目立つ場所がある他、山頂付近ではシカによる植生被害が目立つようになってきている。今後は植生がさらに衰退する恐れがあるため、注意が必要である。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。